

元治元年八月一日より元治元年八月五日まで

P8311170 right

留守宅へお高2の好消息を報告し遣す、

二日午 晴

保三来り弔す、手なる味噌一器、舛のふし一套を贈らる、五郎生来る両嬢の迎也、返し遣す

柳亭稽古

として来る、梨実少許を贈らる、広沢(悦)別手出役被命後、初て来り味噌券二と蒸羊糕を贈らる
右謝意と弔意にと兼るなり、出 殿、万石以上布衣以上御役人例齋出仕平服也、出、御有し
長州征伐の義被仰出、且於席に震(宸)翰写御渡し有し、黄昏前過か、豊州より本夕甲州俱に
帰府の段、報告有し、京極越前、山口信濃より辻番頭にて可心得旨達し来る

三日未 晴

田中(鑓)初て来り面す(下等)、牛込より□1氣慰問として油□2揚一重、葡萄一器、□3餅等贈り来る
出

殿、御出陣御留守和泉殿、備前殿、御候寒暖□4、因幡殿御□5手に付、伊豆殿被□6仰の旨

P8311170 left

長州沖へ外国船相廻り候趣に付、乗附引戻方□7□8として肥後 並羽太庄左衛門被命御船は、

津順丸

の積り也。薄晩退出。昨夜、辻番頭取可心得旨達有しに付、京極越前へ申談じ、右達難受段
断す、および書面を以て達す、須崎伯母来り旧北堂遺物配分方を議し一泊す

四日申 晴雲夕前遠雷

出 殿、肥後明日津順丸へ乗組出帆の積り、明日金港出張英ミニストル請に応じ各ミニストル
へ引合可申旨

和泉守殿より命せらる、太田(伝)より紹介赤井(放)、別手組被仰付吹聴として来り、鯉節箱を持参、
直帰りし旨也

右品は返し遣す積り也、藤山稽古に来る、須崎伯母遺物一包三家分を持帰りし旨、医道元を呼ぶ
痔疾容躰を診察せしむ、一杯を勧む

五日酉 雲漸に薄事、半過強雨一過

第六字時出立、第七時三田上陸場へ着、同所より御勘定所断りの御用船にて第十一時、金駄着
山手本陣泊り也

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。